

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	ページ
32121	ことばのちからイベント事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	2
32121	俳句ポスト事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	3
32121	文学賞運営事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	4
44211	文化振興事業	坂の上の雲まちづくり部	文化・ことば課	5

令和5年度 松山市事務事業シート（令和4年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	ことばのちから	連絡先	948-6524	
部長等名	家串 正治	課等長名	村本 実紀	リーダー	富田 真次	担当	梶田 晋一郎	瀧本 綾

1.事業概要【Plan】

事業名	ことばのちからイベント事業		事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	5:補助金・負担金	
32121								
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			○	○	○	○	
施策	選ばれる都市づくり							
主な取組	「ことば」文化の内外発信		根拠法令	松山市文化芸術振興計画				
取組みの柱	「ことば」文化の浸透							
目的・背景	<p>・正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文学的土壌を生かして、「ことば」をキーワードとした文化事業を展開し、「ことばを大切に作るまち松山」を市内外に発信する。</p> <p>・2000年(平成12年)に、新たなまちの活性化を目的として、21世紀イベント事業をスタートし、同協議会が実施した「ことばのちから2001」が第6回ふるさとイベント大賞(平成14年)を受賞するなど取り組みが評価されたことから、引き続き「ことば」をキーワードとして事業を展開することとなった。</p>							
対象・内容	<p>・ことばのちから実行委員会へ負担金を支出し、「ことば」を街中に掲示する「街はことばのミュージアム」の実施や「響け!!言霊 第15回“ことばのがっしょう”群読コンクール」を実施。</p> <p>・NPO法人俳句甲子園実行委員会へ負担金を支出し、第25回俳句甲子園を共催。</p> <p>・松山を楽しもうキャンペーン実行委員会へ負担金を支出し、「まつやま落語まつり」を開催。</p>							

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費/財源		令和3年度	令和4年度	令和5年度					
予算(千円)	事業費計	52,951	40,211	32,329		主な経費(千円)【R4決算】	俳句甲子園開催負担金		21,000
	国費・県費	18,300	17,853	13,078			ことばのちからイベント2022負担金		5,939
	市債						まつやま落語まつり負担金		7,600
	その他								
	一般財源	34,651	22,358	19,251					
決算(千円)	事業費計	36,592	37,008			主な取組内容【R4】	・第25回俳句甲子園を共催。 ・「街はことばのミュージアム」と題し、北条ふるさと館や石手川緑地公園など街の様々な場所に“ことば”作品を掲出。 ・「響け!!言霊 第15回“ことばのがっしょう”群読コンクール」を実施。		
	国費・県費	17,498	17,269						
	市債								
	その他	2,900							
	一般財源	16,194	19,739						
人役	正規職員	2.6	2.6	2.6		特記事項	俳句甲子園を3大会ぶりに、群読コンクールを4大会ぶりに通常開催した。また、まつやま落語まつり事業は令和4年度で廃止になった。		
	その他	0.1	0.1	0.1					
	合計	2.7	2.7	2.7					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度(最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析(令和4年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	俳句甲子園未参加県での出張講座実施数	目標	10	10	10	10	新型コロナウイルスの感染拡大により、現地訪問など十分なPRを行うことが困難であったため、未参加県での講座の開催には至らなかった。	
		実績	9	9				
	現状維持	都道府県	達成率	90.0%	90.0%			
成果指標	俳句甲子園への参加都道府県数	目標	47	47	47	47	未参加県での講座実施やPR活動が十分にできなかったことが要因。	
		実績	45	45				
	現状維持	都道府県	達成率	95.7%	95.7%			
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調						
	理由	これまでコロナ禍においてもオンラインを活用して講座を続けており、令和4年度には2県で対面での講座を開催することができた。未参加県でのPR活動については、感染拡大のため十分に行うことが困難だった。						
課題	アフターコロナへの移行に伴い、俳句甲子園への参加及び出張講座への開催実績のない福井県への開催呼びかけを積極的に行う必要がある。また、俳句甲子園の全都道府県参加を引き続き目標とし、上記の福井県と合わせて、未参加県の佐賀県へ俳句甲子園参加の呼びかけを行う。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	未参加県を中心とした全国の高校に対し、出張講座の効果的なPRを行っていく。	

令和5年度 松山市事務事業シート（令和4年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	ことばのちから	連絡先	948-6524	
部長等名	家串 正治	課等長名	村本 実紀	リーダー	富田 真次	担当	吉井 亨	宮内 啓

1.事業概要【Plan】

事業名	俳句ポスト事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	1:直営	
32121		各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		○	-	○	○	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する						
施策	選ばれる都市づくり	根拠法令	松山市文化芸術振興計画				
主な取組	「ことば」文化の内外発信						
取組みの柱	「ことば」文化の浸透						
目的・背景	俳句を楽しみ、俳句を愛するまちとして「俳都松山」の認知を高め、かつ松山の俳句文化を全国に広めることを目的としている。より多くの方が俳句に親しみ、俳句の魅力さらには松山の魅力を知ることができるようにする。						
対象・内容	松山を訪れた観光客や市内外の方に対して、投句受付や入選者発表をすることで、松山の俳句文化に親しんでもらい、俳都松山をPRする。 ①市内俳句ポスト…観光客や設置地域の市民に俳句に親しんでもらう。 ②県外・海外俳句ポスト…俳都松山の存在を知ってもらう。 ③俳句投稿サイト「俳句ポスト365」…誰でも、いつでも、どこからでも全国から気軽に投稿できるようにする。						

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費/財源		令和3年度	令和4年度	令和5年度					
予算 (千円)	事業費計	6,355	6,493	6,394		主な経費 (千円) 【R4 決算】	俳句ポスト365と市内電車俳句ポストの運営管理委託料		4,522
	国費・県費	2,064	2,106	2,106			入選記念品や選句謝礼などの報償費		467
	市債						俳句ポスターの広告料		462
	その他								
決算 (千円)	事業費計	5,869	5,875			主な取組内容 【R4】	・俳句ポストの回収、投句データの打込み、選句依頼、記念品と入選通知文の発送などを行った。 ・俳句投稿サイト「俳句ポスト365」の運営業務を委託し、俳都松山のPRを行った。		
	国費・県費	2,074	2,208						
	市債								
	その他								
人役	正規職員	0.2	0.2	0.2		特記事項			
	その他	0.8	0.8	0.8					
	合計	1.0	1.0	1.0					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和4年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	俳句ポストの設置数	目標	113	113	113	113	従来より路面電車の旧型車両に設置している俳句ポストが、新型車両の入れ替えに伴い減少したため。	
		実績	110	106				
	現状維持	箇所	達成率	97.3%	93.8%			
成果指標	俳句ポスト・俳句ポスト365の投句者数	目標	30,000	31,000	32,000	33,000	各地に設置している俳句ポストへの投句者数は観光客の回復と共に増加した。俳句ポスト365はどこからでも投句できるため、コロナ禍においても投句数が増加した。	
		実績	32,564	43,819				
	単年で増		達成率	108.5%	141.4%			
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調						
	理由	コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきていることもあり、市内・県外に設置している俳句ポストの投句数・投句者数はともに大きく増加している。また、俳句ポスト365は自宅などから気軽に投稿できるため、行動制限があった中でも投句数・投句者数ともに増加し、現在も好調である。市内・県外設置の俳句ポストや俳句ポスト365を通して、多くの方が俳句に親しみ、俳句の魅力や松山の魅力を知ってもらうことができている。						
課題	路面電車の新型車両の入れ替えに伴い、旧型車両に設置している俳句ポストの設置数は減少しているため、新規で設置できる場所を検討する。			今後の方向性	現行のまま継続		左記の理由	俳句ポストの設置数は減少しているものの、投句数や投句者数は増加しているため。

令和5年度 松山市事務事業シート（令和4年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	文化振興	連絡先	948-6634	
部長等名	家串 正治	課等長名	村本 実紀	リーダー	富田 真次	担当	鎌田 めぐみ	森貞 美里

1.事業概要【Plan】

事業名	文学賞運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	2:委託	
32121							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	○	○	○	
施策	選ばれる都市づくり						
主な取組	「ことば」文化の内外発信	根拠法令	松山市文化芸術振興計画				
取組みの柱	「ことば」文化の浸透						
目的・背景	近代俳句の父・正岡子規を生み、明治の文豪・夏目漱石が小説「坊っちゃん」に描いたまちという豊かな文学的土壌をいかし、本市の文化的イメージアップと市民文化の向上を図る。 平成元(1989)年の市制施行100周年を記念して創設。全国の多くの市が市制100周年を迎える中で、「坊っちゃん文学賞」は自治体文学賞の先駆けとなった。第19回は7,026点の作品応募があり、「ことばと文学のまち松山」を全国に発信している。						
対象・内容	・文学賞に関する事業の運営委託料を株式会社パンフィックボイスへ支出。 ・令和4年5月1日から令和4年9月30日まで作品を募集し、令和5年2月21日に審査結果発表・表彰式を行った。 ○審査員:田丸雅智、大原さやか、山戸結希 ○アンバサダー:白濱亜嵐 ○賞:大賞1名(賞金500千円)、佳作5名(賞金100千円)						

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費
事業費/財源		令和3年度	令和4年度	令和5年度					
予算(千円)	事業費計	14,437	14,437	18,650		主な経費(千円)【R4決算】	文学賞運営業務委託料		13,200
	国費・県費						賞金		1,000
	市債								
	その他								
	一般財源	14,437	14,437	18,650					
決算(千円)	事業費計	14,350	14,217			主な取組内容【R4】	・パンフィックボイスへ文学賞の運営を委託し、作品募集、ワークショップ、審査、結果発表等を実施。		
	国費・県費								
	市債								
	その他								
	一般財源	14,350	14,217						
人役	正規職員	0.7	0.7	0.7		特記事項			
	その他								
	合計	0.7	0.7	0.7					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度(最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析(令和4年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	書き方ワークショップ開催回数	目標	5	5	5	5	他の文学賞と比べて、多くの応募を受けており、現状を維持する。	
		実績	5	5				
	現状維持	回	達成率	100.0%	100.0%			
成果指標	作品の応募数	目標	9,400	7,000	7,100	7,100	審査員等によるSNS投稿や、市内へのチラシ配布場所を増やす等の取組みを行い、前年度より応募数は増加した。	
		実績	6,952	7,026				
	単年で増	点	達成率	74.0%	100.4%			
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。						
	理由	作品の応募数について、前年度(令和3年度)より多くの作品の応募があり、目標値を達成できた。						
課題	例年、多くの応募があり、坊っちゃん文学賞の認知が広がってきたものと考えられるが、今後も応募数増加に向けた取組みを、委託業者と連携し行っていく必要がある。また、応募数だけに留まらず、坊っちゃん文学賞を通じ「文学のまち松山」のPRに努める必要がある。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後も文学賞を継続して実施し、「文学のまち松山」を市内外にPRしていくため。	

令和5年度 松山市事務事業シート（令和4年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	文化・ことば課	担当G	文化振興	連絡先	948-6634		
部長等名	家串 正治	課等長名	村本 実紀	リーダー	富田 真次	担当	鎌田 めぐみ	大西 未起	

1.事業概要【Plan】

事業名	文化振興事業		事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	5:補助金・負担金		
44211									
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約		
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			○	○	○	○		
施策	文化芸術の振興と活用								
主な取組	文化芸術活動の継承・推進及び支援		根拠法令	文化芸術基本法、松山市文化芸術振興計画					
取組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実								
目的・背景	松山市文化芸術振興計画の3つの基本理念「文化芸術で市民の創造性や表現力の向上を目指す」「文化芸術で心豊かで活力ある地域社会の形成を目指す」「文化芸術で市民の誇りと絆を深め、世界や未来へつなぐ」のもと、各種事業を推進し、将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”を目指す。								
対象・内容	・松山市文化協会等に対して補助金を支出し、市内の文化芸術団体の発展と普及を図る。 ・松山市文化創造支援協議会に対して負担金を支出し、愛媛大学の寄附講座「松山ブンカ・ラボ」で、市民が文化芸術に触れる機会を創出する。								

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	総務費	項	総務管理費	目	文化振興費	
事業費/財源		令和3年度	令和4年度	令和5年度		主な経費(千円)【R4決算】	松山市文化協会補助金		17,885	
予算(千円)	事業費計	54,972	42,264	38,879						
	国費・県費	10,150	9,650	6,500						
	市債									
	その他									
	一般財源	44,822	32,614	32,379		松山市文化創造支援協議会負担金		15,325		
決算(千円)	事業費計	36,792	41,590							
	国費・県費	10,150	9,662							
	市債									
	その他									
	一般財源	26,642	31,928			愛媛国際映画祭開催負担金		4,000		
人役	正規職員	2.8	2.8	2.8					主な取組内容【R4】	・松山市文化協会等へ運営補助金を支出し、文化芸術の振興を図った。 ・松山市文化創造支援協議会へ負担金を支出し、愛媛大学寄附講座「松山ブンカ・ラボ」で、市民の文化創造の場を創出した。
	その他	0.1	0.1	0.1						
	合計	2.9	2.9	2.9						

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和9年度(最終目標年度)	目標の達成又は未達成要因の分析(令和4年度)	
	目指す方向性	単位							
活動指標	松山市文化協会による事業実施数	目標	9	9	9	9	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、開催を見送った。		
		実績	5	7					
	単年で増	件	達成率	55.6%	77.8%				
成果指標	松山市文化協会会員数	目標	251	251	251	251	会員の高齢化が進行し、団体内のメンバー減少や活動休止による減となっている。		
		実績	185	181					
	累計で増	団体	達成率	73.7%	72.1%				
事業評価	評価	一部の取組は期待した成果をあげられなかったが、全体としては概ね順調							
	理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、一部、事業の開催が中止になるなど、予定していた事業を遂行することができなかった。							
課題	経済的な発展や社会の多様性が進む中で、国では平成29年、法改正を行い、文化芸術の振興にとどまらず、文化芸術が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他関連各分野の施策と有機的な連携を図ることを盛り込んだ。今後、ウィズコロナ、アフターコロナに対応した事業実施が必要である。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	新たに、まちなかで文化芸術の公演等を行う事業に「まちなか文化活動補助金」を支出するなど、市内の文化芸術団体の発展と普及、および、市民が気軽に文化芸術に触れる機会の創出を継続して行っていく。		